

# 日蓮大聖人御書全集

まつのどののにようぼうごへんじ

松野殿女房御返事

ちようしんぶつじゆう こと

（澄心仏住の事）

新版  
2006  
〜  
2007

まつのどののにようぼうごへんじ ちようしんぶつじゆう こと

# 松野殿女房御返事（澄心仏住の事）

けんじ こうあんき まつのどののにようぼう

建治・弘安期 松野殿女房

はくまいいつと いもいちだ なしひとこ みようが 薑 えだまめ

白米一斗・芋一駄・梨子一籠・茗荷・はじかみ・枝大豆・

海老根 ものた そうら

えびね、かたがたの物給び候いぬ。

にこ みず すきす か き とり へんろ

濁れる水には月住まず、枯れたる木には鳥なし、心なき

によにん み ほとけす たま ほけきよう たも によにん す みず

女人の身には仏住み給わず。法華経を持つ女人は澄める水

しやかぶつ つき やど たも たと によにん はら はじ

のごとし。釈迦仏の月、宿らせ給う。譬えば、女人の懷み始

わ み おぼ つきようや かさ ひ

めたるには吾が身には覚えねども、月漸く重なり日もしば

す はじ 然 うたが のち いちじよう おも

しば過ぐれば、初めにはさかと疑い、後には一定と思う。

こころ 男 子 女 し ほけきよう

心ある女人は、おのこころ・おんなをも知るなり。法華經の

ほうもん なんみようほうれんげきよう こころ しん

法門も、またかくのごとし。南無妙法蓮華經と心に信じぬ

こころ やど しやかぶつはら たも はじ 知

れば、心を宿として釈迦仏懷まれ給う。始めはしらねども、

ようや つきかさ こころ ほとけゆめ み よろこ こころようや

漸く月重なれば、心の仏夢に見え、悦ばしき心漸く

しゅつたい そうろう ほうもんおお とど そうろう

出来し候べし。法門多しといえども、止め候。

ほけきよう はじ しん のちと 難

法華經は、初めは信ずるようなれども、後遂ぐることかた

たと みず かぜ 動 はな いろ つゆ うつ

し。譬えば、水の風にうごき、花の色の露に移るがごとし。

なん いま たも たも ぜんしよう

何として今までは持たせ給うぞ。これひとえに、前生の

くりき うえ しやかぶつ まも たも 頼

功力の上、釈迦仏の護り給うか。たのもしし、たのもしし。

くわ かいどのもう  
委しくは甲斐殿申すべし。

くがつついたち

九月一日

まつどののにようぼうごへんじ

松野殿女房御返事

にちれん  
日蓮

かおう  
花押